

平成 30 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 30 年 10 月 16 日

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	松井 太	全・定・通	①分
----	----	-----	-------------	------	------	-------	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>○現状と課題を適切に分析したうえで、新しい大学入試と社会のグローバル化に対応した学校を目指すべく、全体の方針が「尾道北高校今後の改革の方向性」に適切に集約されている。</p> <p>○学校経営目標が明確であり、新しい学力観に基づいた学びの保証を目指している。進路指導を含むキャリア教育について包括的に取り組むことを意識した計画が立てられている。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<p>○生徒の主体的な学びについて、経時的な変化を分析することで、個の学習を丁寧にサポートできるようになっている。</p> <p>○進捗状況を把握するためのアンケートや学習・生活実態に関する調査が計画的に実施されており、相対的かつ客観的に評価できるよう工夫がなされている。</p> <p>○「多面的に生徒が認められる学校」への取り組みがどのように進捗していくのか、今後、具体的な指標を示す必要がある。</p>
目標達成に向けた取り組みの適切さ	B	<p>○「カリキュラム・マネジメント委員会」を設置することで、課題を明確にし、改善方針の決定と成果の検証が組織的かつ迅速に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「グローバル人材の育成」に向け、新たな試みを行っている。今後どのように展開され、どのような成果を出すのか、確実に検証されることが期待される。</p> <p>○1・2年生の家庭学習時間が9月に減少する傾向にあり、同様の傾向が4年間続いている。学校行事との兼ね合いもあるが、適切な対策が期待される。</p>
評価結果の分析の適切さ	A	<p>○進路指導部、教育研究部、生徒指導部、総務部等において、継続的に評価結果を集計しており、学年での比較、年次での比較、推移の分析ができています。</p> <p>○授業評価アンケートでは、インプット指標とアウトプット指標の相関から考察を行っており、「思考力」を高める方策や「問う力」と「深い学び」の関係性を明らかにしている。</p> <p>○学力レベルを縦軸、学習習慣の達成度を横軸としたクロス分析で、生徒の主体的な学習について可視化して分析できるように工夫がされている。</p>
今後の改善方策の適切さ	B	<p>○ICT の活用による授業改善が促進されていることが、学校評価アンケートから定量的に示されている。</p> <p>○今後は、より主体的、対話的で深い学びを促進できるよう、「問う力」の向上による授業の質的な改善が期待される。</p> <p>○「課題研究」の質的な向上が望まれる。今年度、全校生徒が参加する発表会を開催したことで、下級生の意識の高まりや、課題を探究することへの興味・関心が高まることを期待するが、一方で指導体制の充実及び改善も重要となる。</p>
総合評価	A	<p>○課題を適切に分析し、社会に必要とされる人材を育てるという意識を高く持ち、新たな試みを志向している。また、広報活動と連動し、説明内容を精選することで学校の魅力を高めたり、グローバル化に対応するプログラムを打ち出したりする等、意欲的に情報を発信している。</p> <p>○生徒が主体的に学ぶことができるように組織的に支援したり、個の学習を丁寧に指導したりする従来の取り組みを継続して行っている点も評価できる。</p>